

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139



▲別ショットの写真

今月の表紙は、2月14日に降った雪で作ったかまくら(幸田保育園)です。2時間ほどかけてかまくらを作って子どもたちを呼ぶと、最初は怖がっていましたが、1人が中に入ると、みんなへっちゃら&興味津々。その後も雪だるまを作ったり、寝転がったり、いろいろな雪遊びを楽しみました。

今月の表紙

行って! 見て! 納得! こうたの歴史

深溝街道

シリーズ最終回は平坂街道から分岐する深溝街道を紹介します。深溝街道は平坂街道の脇道として、深溝字札ノ辻を起点に里区の誉師・曲松・折ヶ谷の集落内、幸田駅前、熊野神社、高力神明宮、坂崎古城の横を通り、岡崎まで繋がる道になります。現在の県道岡崎幸田線がほぼ、この道に該当します。平坂街道は脇道である深溝街道があることで、東海道以外の岡崎へ繋がる道としても重宝されていました。

江戸時代、この道を重要視していたのが九州島原藩になります。藩主深溝松平家の参勤交代の帰りの際には、小坂井から平坂街道に入り、本光寺を訪れ先祖の墓をお参りした後、深溝街道を通り東海道に戻ります。また藩主が亡くなった際も、御遺骸道中として使われ、8代藩主松平忠侯の際は、深溝の折ヶ谷に家臣などが控え、墓所まで誘導した記録が残っています。

ます。13代藩主である松平忠和が大正6年に亡くなった際は、東京で葬儀を行った後、東京駅21時50分発の夜行汽車で遺骸が運ばれました。幸田駅に到着後、棺は深溝街道そして平坂街道を通り、松平家墓所に埋葬されました。このように深溝街道は、村の道として、岡崎と豊橋を結ぶ道として、深溝松平家と深い縁を持つ道として、そして、現在は幸田町にとって非常に重要な道として機能し続けています。



【参考資料：地域史深溝、瑞雲山本光寺文化財調査総合報告】

みんなの作品展!

平成25年度 防火ポスター書道展からのセレクトです



すずき はると
鈴木 陽斗 くん



ひらの ふみや
平野 史也 くん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入の上、企画政策課広報広聴Gまでお送りください。(デジカメ写真の場合はメールで)

「こうた」

3月、「初集会」が各地区で開かれます。年に一度、行政区などの重要事項を決めるのが、この初集会ですが、日程も進行も一様ではなく、地域色があるようです。おたくの地区ではどうですか…

「区」の初密合を朝やって、夕方から切ごとんやって、ほのあとしこがあるだけだが、おらがほーは、昔っから、ひきずりに決まるとるたわ」

「行政区の初集会を朝行って、夕方から区内の地区(こ)に(初集会を)行って、その後、懇親会があるんだけど、私の所は、古くから、すきやきに決まってるんだよ」という意味です。

「密合」といった地区の集會などの終了後にある懇親会。この懇親会には、もちろん酒はつきものですので、「酒肴(しゅこ)」「肴」が転じて「こ」「こ」と、懇親会そのものをいうようになったと考えます。

例文は、私の地元で行われてきた初集会の様子を表現したものです。この「しこ」は、二十年前前に逝った父から聞いて以来聞いたことがありませんし、ご近所同士で囲む「すきやき」を「ひきずり」と言う人は、誰もいません。これらの方言も、遠い記憶の向こうに逝ってしまったのです。(文・しるぎ)



青春トークリレー
第252走者

こんどう しほ
近藤 紫布 さん

岩堀区在住 23歳
身長 158cm 血液型 A型
好きな芸能人 阿部サダヲ

私は社会人になってもうすぐ4年目を迎えます。自分で選んだ職業で働くことができ、支えてくれる家族や周りの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

週末には友人と出掛けたり、愛犬の散歩をしたり、お気に入りの所へ旅行にいったりと、楽しみをたくさん持てていることもうれしく思います。そんな楽しみの中のひとつが、母の料理です。母は毎日家族のためにあたたかいご飯を作ってくれます。昔は野菜が苦手だった私も、今では何でもおいしく食べられるようになりました。

幸田町には新鮮な野菜や果物がたくさんあるので、今度は私が野菜のおいしさ、食事の楽しみを伝えられるようになれたらと思います。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



さとうっ子探検隊!

「某月某日
〜里保育園」
わんぱくくらぶ

里保育園の周りには、自然がいっぱい。お天気の良い気持ちいい日は、みんなでお散歩に出掛けます。年長・年中児のお兄さんとお姉さんが年少児と一緒に手をつなぎ、元気に出発です。子どもたちの一番のお気に入りには、森の妖精が住んでいるといわれている「まるぼの山」探検です。初めて森に入った年少さんは不安でいっぱい。でもそんなときは、ペアの年長・年中

さんのおたすけマンの出番です。一緒に手をつないであげたり「だいじょうぶだよ。」と声を掛けてあげたりして、励ましてくれます。そのおかげで、みんなで「まるぼの山」の頂上までたどり着くことができました。到着すると、「やったー」簡



単に登れちゃった!」と子どもたちの歓声が上がります。気持ちのいい山の空気をいっぱい吸い込んで、子どもたちの顔もとってもいきいきしています。このすてきな自然の中で、さとうっ子子どもたちがぐくぐく元気に育ちますように。

ちびと編集者のわんぱくくらぶ

▼早速ですが、お待ちかね「編集者の最近これ話題ですよクイズ」のコーナー☆問題ですープレゼン、たくさんの感動を与えてくれた今回のソチリンピック…今回のオリリンピックの開催地はどこか?

…正解は…なんと…ロシアのソチでしたー。ソチなんて初めて聞くよーという人に豆知識。ロシアは日本の北側にありますが、ソチは大きなロシアの中でもヨーロッパに近い最西端にあるんですよ。きつとなんとなく日本の上の方だなーって思っていた人も多いのでは? 僕も思わず言いましたもん。ソッチかーいー

さあ、編集者のソチリカンジョークも金メダル獲得ということで、話を戻します。今回は、日本の若い選手から最年長選手までと、幅広い年代の選手が大活躍し、本当に感動させていたいただきました。夜中まで観戦し、眠りながら寝返りのトリプルアクセルを成功させると、朝にはなんと幸田も真っ白な雪景色。思わずボブスレーで出勤しそうになりましたもんね。笑

それにしても、今年の2月は数年ぶりにたくさんの雪が降りましたね。寒さが大の苦手である僕ですが、この珍しい景色をたくさん写真に収めようと、朝から夕方まで、歩いて町内の風景を撮影していました。おかげで幸田町の少し違った美しい一面を見ることができました。また皆さんが「存じの」幸田町の絶景撮影スポット」などがありましたら、ぜひ、編集者に教えてください☆(´▽`)